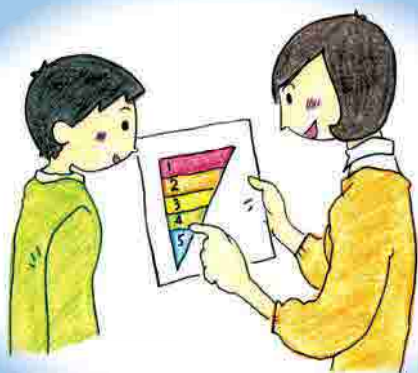


自閉症・情緒障害特別支援学級 における自立活動の授業づくり

応援リーフレット



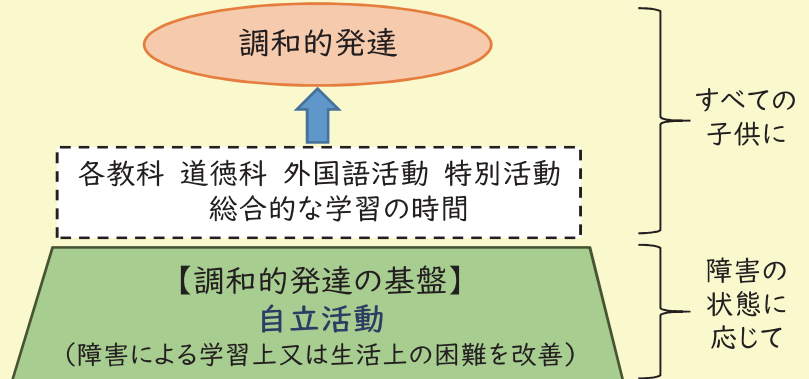
高知県教育委員会
令和6年3月

自立活動の指導とは…

自立活動は、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導の場において、特別に設けられた指導領域です。特別支援学校学習指導要領解説では、自立活動の目標は、以下のように示されています。

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

調和的発達は、障害の有無にかかわらず、すべての子どもが目指すものです。しかし、障害による困難から各教科等の学習や学校生活が十分できなければ、調和的発達を遂げることはできません。そこで、各教科等を学んで調和的発達を遂げられるよう、その土台をしっかりと築くために自立活動を学ぶ必要があるのです。



各教科等の学習の遅れを取り戻すための指導ではなく、
各教科等の学習の土台を作ります。



自立活動の内容

自立活動の内容は、6つの区分の下にそれぞれ3～5つの項目が示され、全部で27項目あります。
(本リーフレットの最終ページ参照)

- 1 「健康の保持」
- 2 「心理的な安定」
- 3 「人間関係の形成」
- 4 「環境の把握」
- 5 「身体の動き」
- 6 「コミュニケーション」

各教科等のように、すべてを行うものではなく、障害のある児童生徒一人ひとりの状態に合わせて、27項目から必要な要素を選び出し、相互に関連付けながら、具体的な指導内容を設定して指導を行います。

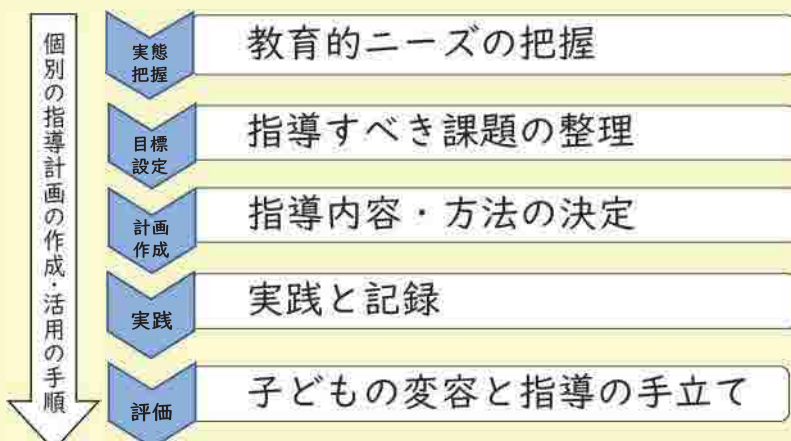
「学習指導要領解説 自立活動編」には、実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例として「流れ図」を掲載しています。ぜひ、参考にしてください。



個別の指導計画の作成が自立活動の出発点!!



自立活動の指導においては、実態把握に基づき、指導すべき課題を明確にすることによって、指導目標及び指導内容を設定し、個別の指導計画を作成します。個別の指導計画を作成することで、目標や具体的な指導内容、評価の妥当性を高めることができます。



自立活動の指導はオーダーメイド

チームで取り組むためのツール



自閉症・情緒障害とは…

自閉症とは、①他者との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする発達の障害です。その特徴は、3歳くらいまでに現れることが多いですが、成人期に症状が顕在化することもあります。

情緒障害とは、周囲の環境から受けるストレスによって生じたストレス反応として状況に合わない心身の状態が持続し、それらを自分の意思ではコントロールできないことが継続している状態をいいます。



自立活動における授業づくりのヒント ～拠点校の実践より～

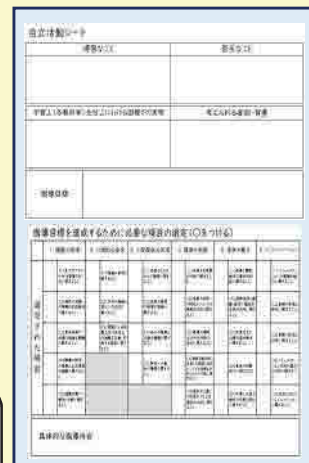
実態把握から具体的な指導内容を設定する際のツールの活用例



【『流れ図』の活用】

[illegible]

【自立活動 個別支援表(伊野南小学校の実践より)】



【自立活動シート(高知県教育センター研修資料)】

どのようなツールを活用しても、「困った行動が生じている背景や理由を考える」、「その子にとっての強み(得意なこと、興味・関心)を押さえる」ことが大切です。

障害の特性に応じた指導・支援の工夫

【見通しがもちにくい】

- ・活動やルールの視覚化
- ・授業や質問のパターン化
- ・タイマー等の活用



【集中が続かない】

- ・静の活動と動の活動を取り入れる
- ・学習活動の内容によって、場所を変える



【活動への参加が難しい】

- ・困った時の対処法を事前に確認しておく
- ・参加時間や方法に選択肢を設けて、子どもが**自己決定**できるようにする



安心できる学級づくり・授業づくり

通常の学級との連携について

交流及び共同学習を行う際には、通常の学級担任との連携が必須となります。自立活動での学びが学校生活や家庭生活につながるよう、取り組んでいくことが大切です。自立活動の指導で取り組んでいることや身に付いてきた力、その力を発揮できる環境について、交流学級の担任や教科の担当者等と共有し、指導上の配慮や手立てに活かすようにしましょう。

次ページから、自閉症・情緒障害特別支援学級における自立活動の授業づくりと、特別支援教育の組織的な取組を推進するために指定を受け、実践を行った学校の取組を紹介しています。
ぜひ、自校で取り組む際の参考にしてください。



～香美市立山田小学校の取り組み～

実践事例 自己調整が苦手なため、友達と話し合うことが難しい児童への指導

児童の実態【6年生4名の共通事項】

- ▲感情のコントロールが不十分である。
- ▲言葉でのやりとりで課題がある。
- ▲同年代との関わりより大人との関わりを好む。
- ◎自分の行動を自己決定し、やりとげることができる。
- ◎見通しがあれば、こつこつ課題に取り組むことができる。

指導目標【短期】

- A:適切な言動で友達や教員と関わるができる。
- B:相手の気持ちを考えて行動したり、自分の気持ちをコントロールしたりすることができる。
- C:友達や下級生とやりとりすることが増える。
- D:困ったときに、同級生に助けやアドバイスを求めることができる。

指導目標を達成するために必要な自立活動の区分・項目の選定

- 2心理的な安定
- 3人間関係の形成
- (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること
- (2)他者の意図や感情の理解に関すること
- (3)自己の理解と行動の調整に関すること

校内支援体制

◎交流学級との連携

(参加時間の自己決定と視覚支援、指導目標の共有、般化の場面での価値付け、Google Meetを活用した授業参加、実技テストの録画等)

◎特別支援学級相互の連携

(合同自立活動の実践によって、全担任で児童の成長を見守る、異年齢での関わりによる役割意識の育成)

指導の実際

■単元名

友達といっしょに成長しよう！
(助け合い、声の掛け合いって楽しいね！)

■単元目標

自己開示によって受容された経験を重ねると同時に友達の自己開示を聞いて解決の糸口を伝える活動を通して、友達と助け合うことの良さを感じ、自己調整しながら話し合い活動に参加できる。

■単元計画

第一次（1時間）

- 中学校の先輩からのビデオメッセージを見る。
- 11月の自分の理想の姿や行動目標(めあて)を設定する。

第二次（1時間）

- 「自分リーフレット」を振り返り、「短所を長所に変えるシート」に自分のがんばりたいことを記入する。

第三次（2時間：本時）

- 「短所を長所に変えるシート」をもとに、自分のがんばりたいことを友達と伝え合う。

- 友達の話聞いて、考えたことやアドバイスを伝える。

第四次（1時間）

- 単元の振り返りをする。

■授業展開(単元までの事前指導を含む)

「中学校入学への道のり」

- ・中学校入学の理想の姿を項目ごとに書き出す。
- ・ほぼ毎月「目標設定」と「振り返り」を行う。
- ・理想の姿に少しずつ近づいていることを確認する。

「相談スキルを身に付けよう」

- ・相手の都合の聞き方を知る。
- ・様々な場面での話し方を知る。
- ・実際にやってみる。(SST)

「自分リーフレットを作ろう」

- ・「自分リーフレット」を作る。(書籍資料の活用)
- ・自己理解をする。
- ・他者から自分のイメージを聞く。

「友達といっしょに成長しよう！(助け合い、声の掛け合いって楽しいね！)」

- ・「短所を長所に変えるシート」を作成する。(自己理解/書籍資料の活用)
- ・「短所」の部分を「自分のがんばりたいところ」と捉え、その内容を友達に自己開示(相談)する。
- ・友達の自己開示に対して共感したりアドバイスをしたりする。

みんなにお願いがあります！

友達がやりよったのは…。

ぼくがやっているのは…。

イライラをおさめるにはどうしたらいいですか？

■指導の工夫

- ①カードゲーム『こまった課?』を通した他者理解
- ②書籍と連動したワークシートの活用
- ③相談スキルの視覚支援

① カードゲーム

『こまった課?』
(デジタル・アド・サービス)



② 書籍

『自信の育て方』
～学校では教えてくれない大切なこと～
(旺文社)



③ 相談スキルシート



■児童の変容

- 各月の行動目標が少しずつ具体的になっている。
- 内省し、前向きな発言が出始めた。
- 児童が互いにアドバイスし合う姿が見られ始めた。
- 交流担任との人間関係が構築され、自分から質問する場面が増えている。



【ワークシート】



～南国市立大篠小学校の取り組み～

実践事例

折り合いをつけることが苦手なために、集団活動への参加が困難な児童への指導

児童の実態

- ・失敗に対する恐れや完璧に対するこだわりが強い児童が多く、勝ち負けのあるゲーム活動は、気持ちの切り替えに時間がかかる。
- ・生き物などの身近な自然に触れることや、鬼ごっこ、ドッジボールといった体を動かす遊びを好む。

指導目標

- 長期目標・・・集中して取り組もうとする活動において、多少の失敗があっても最後まで取り組むことができる。
- 短期目標・・・苦手なことや失敗しそうな状況であっても、教師と一緒に取り組むことができる。

指導目標を達成するために
必要な自立活動の区分・項目の選定

- | | |
|-----------|----------------------|
| 2 心理的な安定 | (1)情緒の安定に関すること |
| 3 人間関係の形成 | (2)他者の意図や感情の理解に関すること |
| | (3)自己の理解と行動の調整に関すること |

校内支援体制(チーム大篠)

- ・週1回の「わみなつ会※」の実施 ※特別支援学級担任団(以下「特支団」と称する)のチーム会
→動画を用いた多面的な実態把握による自立活動の指導内容の検討等
【教師の専門性の向上と特支団の連携強化】
- ・特別支援学級担任と交流学級担任との情報共有・連携
→個別の指導計画を用いた指導支援のベクトル合わせ等
【肯定的な姿に注目するアプローチ・互いを認め合える学級の風土づくり】



指導の実際

■題材名

ネバーギブアップ！
～ みんなで楽しくゲームに挑戦 ～

■指導計画

- 第一次「積み木タワーゲーム」 1時間
第二次「空き缶タワーゲーム」 1時間
第三次「新聞紙運びゲーム」 1時間

■本時の目標

- ・ゲームに取り組むなかで、失敗してしまったとしても、気持ちを切り替え、最後まで取り組むことができる。
- ・友達に対して、頑張っている様子を応援し、失敗したときに気遣うような言葉や行動をとろうとする。

■授業展開

- ① 本時の学習の流れや時間を視覚的に提示し、確認する。
- ② 前時の学習のポイントを動画等で振り返り、本時のめあて
（「最後まであきらめず 楽しく挑戦しよう！」）を確認する。
- ③ 空き缶タワーゲームをチーム対抗戦で行う。
- ④ 「今日のとうたつくん(達成度スケール)」や動画を用いた振り返りをする。



■指導の工夫

① 「今日のとうたつくん」の活用

授業の振り返りで、「今日のとうたつくん」を活用した。これは、本時のめあてに対する達成度を自己評価(数値化)して表すものである。この方法を重ねることで、客観的な自己評価ができるようになった。

今日のとうたつくん

3		
2		
1		

② 振り返りにおける動画の活用

活動中のポジティブな言動を動画で記録しておき、振り返り場面で提示した。どんな場面でどのような言動がよかったのか、具体的に振り返ることができ、子どもたちが客観的に理解しやすくなった。



③ 肯定的な言動への即時評価

児童の肯定的な言動に注目し、褒めて認める即時評価(声かけやポイントなどの視覚的評価)を継続して行った結果、子ども同士も肯定的な姿を認めるようになり自己肯定感が高まった。

「先生や友達がいいところを見つけていっぱいほめてくれてうれしいな！」



■児童の変容

<実践前>

- ・上手いかなんかことが予想されると活動からエスケープし、参加が難しかった。
- ・交流学級での学習や学校行事等で他の児童と関わりながら参加することが苦手であった。
- ・学校生活全般における対人トラブルが多かった。

<実践後>

- ・失敗しても、「ま、いっか！」と気持ちを切り替えられる姿が増えた。
- ・図工等の授業を交流学級で受けられるようになった。運動会などの集団活動にも参加できるようになった。
- ・トラブル時に落ち着いて解決しようとする姿が増えた。

2年間取り組んだ成果(○)と課題(●)

- 肯定的な姿をモデルとして示しながら、それができた時に即時評価する取組を交流学級担任、特別支援学級担任とで連携して取り組むことができた。また、互いの学級でのがんばりを情報共有し、互いに評価する声かけを行うなど、自立活動の効果を広げることができた。
- 特支団で動画検証等を行いながら、自立活動の授業づくりに取り組んでいく体制づくりが校内にできた。また、それぞれの特別支援教育や自立活動の授業づくりに関する専門性が高まった。
- 交流学級との連携をさらに進め、自立活動で学んだスキルが一般化される場を増やしていけるように取り組んでいく必要がある。

～いの町立伊野南小学校の取り組み～

実践事例 成功体験や自己肯定感を高めるため、場に応じた望ましい言動について考える指導

児童の実態

- ・自分の興味関心があることについて、積極的に関わることができる。
- ・自己中心的な言動が見られる。自分の気持ちを言葉で表現することが苦手である。
- ・集中が途切れやすく、話を聞きもらすことがある。

指導目標

- ・長期目標…「こうすればうまくできた！」という成功体験を重ねることで自信をもち、楽しい学校生活を送る。
- ・短期目標…見通しをもち、ルールを守って楽しく活動することができる。場に合った言動が分かり、自己の言動を振り返ることができる。

指導目標を達成するために必要な自立活動の区分・項目の選定

- 2 心理的な安定
(2) 状況の理解と変化への対応に関すること
- 3 人間関係の形成
(3) 自己の理解と行動の調整に関すること

指導の実際

■題材名 はなまる人生ゲーム

■題材の目標

- ・見通しをもち、ルールを守って楽しく活動することができる。
- ・オリジナルの人生ゲームを作成する活動を通して、自分の言動を振り返り、場に合った適切な言動を具体的に考えることができる。

■単元計画

- 第1次 計画を立てよう(2時間)
- ・1学期を振り返り、2学期の目標について考える。
- 第2次 ゲームを作ろう(4時間)
- ・学校行事、給食やそうじ、休み時間、授業中を振り返って、マスの内容を考える。
- 第3次 作ったゲームで遊ぼう(1時間)

■指導の工夫

① 自己選択

- ・自分たちでコースを考えることで、意欲的に取り組むことができた。
- ・自分の目標を自分で考える(選ぶ)ことで、活動の目標を意識できた。

② 肯定的な声かけ

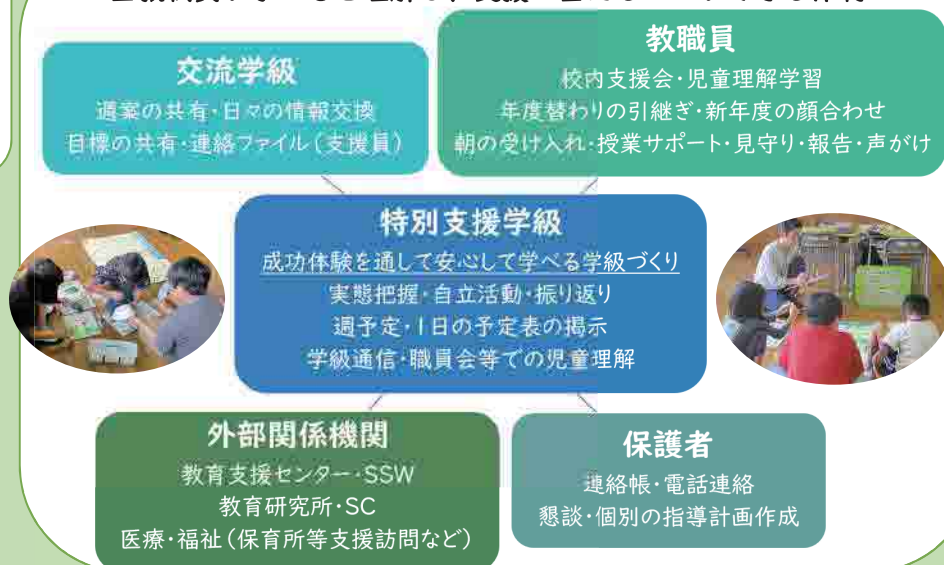
- ・肯定的、前向きな声かけを心がけることで、児童が自分の考えを伝えることが増えた。
- ・児童の良い面に注目することで、児童の笑顔が増え、会話が弾んだ。

③ ロイロノートの活用

- ・活動の振り返りは、タブレットでクイズ問題のように楽しく選択できるようにすることで、みんなが参加できた。

校内支援体制

～全教職員が子どもを理解し、支援に当たることができる体制～



■授業展開

1. SSTカードで、意見を出し合う。
いろいろな場面について絵を見て状況について考え、自分ならどうするか一緒に考える。
2. 人生ゲームを作成しながら、ゲームを楽しむ。
マスの内容を読み合うことで、これまでの言動を振り返りながら、ゴールに向かって進んでいく。
3. 本時の活動を振り返る。
ゲームを通して自己の言動について気付いたことを互いに共有する。

■児童の変容

- ・自分の思いが伝わらず、行動を止められたり注意されたりすると腹が立って物に当たる。
- ・体育では、勝敗にこだわり、協力することが難しい。

- ・自分の思いを言葉で説明できることが増えた。
- ・分からないことを友だちに聞いたり、周囲の様子をよく見て行動したりして、怒りの気持ちを抑えて参加できるようになってきた。

- ・しなければならないことよりも、自分のやりたいことを優先してしまう。

- ・自分の過ごすべき場所ややるべき課題について意識できるようになった。交流学級の自席で授業に参加したり、やるべき課題を確認して支援学級で取り組んだり、選択して取り組めるようになってきた。
- ・支援学級の友だちを誘う声かけが増えた。一緒に課題に取り組めるようにやり方を教えるなど、どうすれば相手が活動に参加できるかを考えて説明したり行動したりする姿が増えた。

- ・自分の気持ちを的確に伝えることが難しい。

- ・何かしら周囲の人に気持ちを訴える場面が増えた。休み時間、友だちと笑顔で遊ぶ姿が見られるようになった。

2年間取り組んだ成果と課題

- ・学校全体で、自立活動に対する理解を深めることができた。
- ・自立活動の更なる充実を図り、交流学級と連携して、取組の成果を実生活で活かせる場面を増やしていきたい。

～黒潮町立入野小学校の取り組み～

実践事例

苦手なことへの抵抗や不安感が強く、活動への参加が困難な児童への指導

児童の実態

- ・異学年編成ではあるが、お互いを大切に思う行動や言葉遣いで関わることができる。
- ・初めてのことに不安感や勝ち負けへのこだわりが強く、最後まで活動に参加することが難しい。
- ・自尊感情が低く、自分の気持ちや自身の成長している姿を見つけることが苦手な児童がいる。

指導目標

- ・長期目標…活動に対して前向きに捉え、自ら目標や計画を立て持続的に取り組むことができる。
- ・短期目標…活動の振り返りから、自分の得意なことや苦手なことを知り、新しい活動をより楽しんで行うための目標を立て、取り組むことができる。

指導目標を達成するために必要な自立活動の区分・項目の選定

- 2 心理的な安定 (1)情緒の安定に関すること
6 コミュニケーション (2)言語の受容と表出に関すること
(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

校内支援体制

交流学級担任
集団行動や
学習への配慮

管理職
児童の見守り
家庭・関係機関との情報交換に
関する助言や情報提供

教職員
日々の学習や活
動において支援
や手立て

チーム入野

多くの教員で一人ひとりの児童を大切に

- ・教科担任制の実施
- ・気持ちメーターの結果共有
どんなことも伝え合う職員室
- ・担任＋支援員＋管理職
- ・ブロックでの定期的な打ち合わせ
- ・職員会での情報共有

養護教諭

情緒の安定
心を落ち着かせる
場所の提供

特別支援学級担任

児童が安心して活動や学習に
取り組める環境作り

保護者

児童の成長や困り感の共有
通信等で学級での取り組み
の情報共有

指導の実際

■題材名 マラソン大会を成功させよう

■単元計画

- 1時 マラソン大会を成功させるために、個人と学級での目標を考える。
2時 マラソン大会を成功させるために、自分の練習の姿を振り返る。
3時 マラソン大会を前に、今の自分の気持ちや目標が妥当かどうか見つめ直す。
4時 がんばったマラソン大会を振り返る。

■本時の目標

- ・マラソン大会に向けて、自分の苦手なことを克服できる目標を自分で立てることができる。
- ・友だちの話を受け入れながら活動に参加することができる。

■授業展開(○発問・指導の工夫)

- 1、授業の内容の確認をする。
・授業の流れを全体で確認し、見通しを持ち授業に取り組めるようにする。(図1)

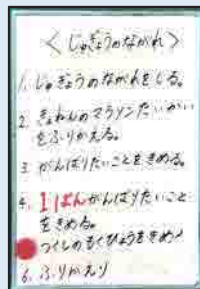


図1 授業の流れ

- 2、昨年度のマラソン大会を振り返り、本時の学習内容を知る。
・走る場所や距離のイメージが持てるようにICTを活用しながら指導をする。

- 3、今年のマラソン大会を成功させるために自分ががんばりたいことを考える。
○「自分がマラソン大会で頑張りたいことは何かな？」
・自分で考えることが難しい児童には、昨年の自分の姿を振り返ったり、友だちにアイデアをもらったりして考えることができるようにする。

- 4、マラソン大会に向けて自分が一番がんばりたいことを決める。
・目標を明確にして取り組めるように1番がんばることを決められるように指導をする。
・短冊に目標を記入し、視覚的にも意識しやすいようにする。(図2)



図2 個人と集団の目標

- 5、つくし学級のみんでマラソン大会に向けて頑張りたい目標を考える。
・個人目標をもちより、お互いのがんばりたいことからつくし学級の目標を話し合いで決められるようにする。

- 6、学習の振り返りをする。
・学習の振り返りを行う際には、マラソン大会に対して後ろ向きな児童が少しでも前向きにマラソン大会を迎えられるように声かけや児童のがんばっている姿を認めるようにする。

■授業後のふりかえり(○児童 ●教師)

○苦手意識や新しい活動に対しても、前向きな自己目標を全員が設定することができた。

○いつもと異なる状況下ではあったが、発言することやお互いを助け合う姿が見られた。

●教員と児童との一対一の対話が多く、児童同士の意見交流の場が十分に確保できていなかった。お互いの考えを聞き合う時間や良さに気付かせる時間を設定することでよりよい個人目標や集団目標を設定することができたのではないかと感じている。

■評価方法

・1年後に指導目標が集団として達成できるように、個々に個人目標を設定し、学校行事や交流学級での様子、自立活動での取り組みを通して見えてきた児童の成長している姿や課題の評価をエピソードと数値で評価をし、見取るようにした。個々を評価することで、手立てや共有すべきことが整理でき、多くの教員で個々の児童に合った支援を行うことができるようになっていく。

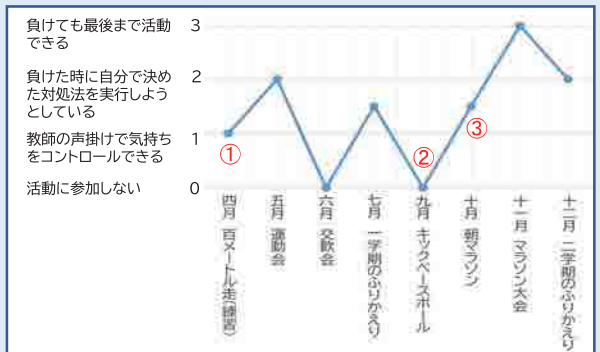


図3 児童Bの勝ち負けへの気持ちのコントロールの変化

■評価に関するエピソード記述 (図3の①～③について)

①運動会に向けた100m走の練習では走れる距離が徐々に伸びていき、総練習と本番は最後まで走り切る姿が見られた。

②「キックベースボール」の学習では、勝ち負けにこだわり、活動を最後まで取り組めない時があった。気持ちを落ち着かせる方法を確認し、最後まで活動に参加するように促したが難しかった。

③朝マラソンの時では自分が目指している距離を時間内に走り切ることができそうにないと最後まで走ることができない時や涙がでる時があった。しかし「最後まで自分のペースで走りきる」とマラソン大会に向けた目標を持ち取り組むことで、朝マラソンや体育の授業においても自分のペースで走り切ることができた。

■考察

○児童Bについては、できないと思う活動へも参加したり、近くで見守ったりする機会が増えている。また、自己目標を設定する際には、自分自身の課題に気づき、具体的な目標を立て取り組めるようになっていく。今後も最後まで他の児童と共に活動をやり遂げることの楽しさや充実感を得られるよう自立活動や行事を通して指導していきたい。

自立活動の内容(6区分27項目)

1 健康の保持

- (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事
- (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事
- (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事
- (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事
- (5) 健康状態の維持・改善に関する事



2 心理的な安定

- (1) 情緒の安定に関する事
- (2) 状況の理解と変化への対応に関する事
- (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事

3 人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事
- (2) 他者の意図や感情の理解に関する事
- (3) 自己の理解と行動の調整に関する事
- (4) 集団への参加の基礎に関する事



4 環境の把握

- (1) 保有する感覚の活用に関する事
- (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事
- (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事
- (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事
- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事

5 身体の動き

- (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事
- (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事
- (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事
- (4) 身体の移動能力に関する事
- (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事

6 コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
- (2) 言語の受容と表出に関する事
- (3) 言語の形成と活用に関する事
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事



<引用・参考文献>

- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)(文部科学省 平成30年3月)
- ・障害のある子供の教育支援の手引(文部科学省 令和3年6月)
- ・自閉症のある子どもの自立活動の指導について考えよう!(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 令和2年)
- ・よく分かる!自立活動ハンドブック! 指導すべき課題を導く(下山直人 監修 ジアース教育新社 令和3年10月)
- ・特別支援学級担任 通級による指導担当教員のためのきほんの『き』(高知県教育センター 令和2年4月)

本リーフレットは、令和4年度及び令和5年度自閉症・情緒障害特別支援学級の授業づくり支援事業における拠点校の皆さんにご協力いただきました。

□香美市立山田小学校 □南国市立大篠小学校
□いの町立伊野南小学校 □黒潮町立入野小学校

拠点校の令和4年度の取組については、高知家まなびばこ 教職員ポータルサイト〔特別支援教育課〕に掲載しております。右記のQRコードよりアクセスのうえ、ご覧ください。



高知家まなびばこ
教職員ポータルサイト
〔特別支援教育課〕



自閉症・情緒障害特別支援学級における
自立活動の指導 応援リーフレット
(令和6年3月作成)

<発行元>

高知県教育委員会事務局 特別支援教育課
〒780-0850
高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号
TEL:088-821-4741
E-mail:311001@ken.pref.kochi.lg.jp